

「臨床婦人科産科」第 69 巻 総目次

2015 年（第 1 号～第 12 号）

数字は通巻頁数、() は号数

今月の臨床

●ゲノム時代の婦人科がん診療を展望する—がんの個性に応じた personalization への道 (1)

【総論】

ゲノム解析に基づく婦人科がん治療を展望する

小西 郁生…………… 6

婦人科がんのシグナル解析と分子標的治療の未来

小島 淳美・杉山 徹……………15

婦人科がんに対する免疫療法の開発と将来展望

柴田 清住・吉川 史隆……………22

婦人科がん治療後の QOL 向上を目指して

高橋 一広・杉山 晶子……………28

婦人科がん患者の緩和ケアとその個別化に向かって

藤村 正樹……………34

小児・思春期がんの妊孕性温存

吉岡 伸人・鈴木 直……………40

【各論 1】子宮頸がん

HPV タイピングと子宮頸部病変取扱いの個別化

藤井多久磨・市川 亮子・鳥居 裕……………46

若年子宮頸がんに対する妊孕能温存手術の個別化

西尾 浩・田中 京子・岩田 卓・青木 大輔……………53

子宮頸がんに対する同時化学放射線療法の今後

戸板 孝文・粕谷 吾朗・有賀 拓郎……………59

再発子宮頸がんに対する個別化的アプローチ

河野光一郎・牛嶋 公生……………63

【各論 2】子宮体がん

子宮体がんにおける MELF パターンの病理と臨床

三上 芳喜……………70

子宮体がん手術におけるリンパ節郭清の個別化

渡利 英道……………75

子宮体部漿液性腺癌のゲノム解析と新治療開発

馬場 長・Budiman Kharmia・小西 郁生……………81

子宮体がんⅣ期の治療個別化を模索する

衛藤 貴子・齋藤 俊章……………88

子宮肉腫（平滑筋肉腫）の病態と分子標的治療—ゲノム解析に基づく新たな展開

吉田 好雄……………96

【各論 3】卵巣がん

卵巣がんに対する妊孕性温存手術の個別化

天神林友梨・佐藤 豊実…………… 106

high-grade 漿液性腺癌のゲノム多様性について

松村 謙臣・小西 郁生…………… 113

low-grade 漿液性腺癌の臨床病理・ゲノムと治療法

本原 剛志・坂口 勲・片渕 秀隆…………… 118

明細胞腺癌の生物学的特性と分子標的治療

万代 昌紀・山口 建・松村 謙臣・小西 郁生…………… 124

遺伝性乳がん卵巣がん（HBOC）への個別対応

谷口 智子・高橋 顕雅・竹島 信宏…………… 130

●総合診療における産婦人科医の役割—あらゆるライフステージにある女性へのヘルスケア (2)

〈若年女性の健康管理〉

原発性無月経の健康管理

榊原 秀也…………… 175

ヤングアスリートの健康管理

久保田俊郎…………… 182

〈産婦人科疾患患者の生涯にわたる健康管理〉

早発閉経症の生涯管理

五十嵐 豪・鈴木 直・石塚 文平…………… 188

PCOS の生涯管理

大場 隆…………… 193

子宮内膜症の生涯管理

原田美由紀・大須賀 穰…………… 199

婦人科がん術後の生涯管理

田辺 晃子・大道 正英…………… 205

PIH 後の生涯管理

倉林 工…………… 209

妊娠糖尿病の生涯管理

平松 祐司…………… 215

〈中高年女性の健康管理〉

骨の健康へのかかわり方

牧田 和也…………… 223

メタボリック症候群へのかかわり方

岩元 一朗・堂地 勉…………… 229

●早産の予知・予防の新たな展開 (3)

わが国における早産の動向

大場 智洋・関沢 明彦…………… 274

〈早産の予知〉	三宅 貴仁・下屋浩一郎……………46
再確認！子宮頸管長の正しい測定法とその臨床的意義	胞状奇胎
川端伊久乃・中井 章人…………… 280	福嶋恒太郎・加藤 聖子……………51
子宮頸管生化学マーカーと早産予知	切迫早期流産・絨毛膜下血腫・早期流産
田中 幹二・湯澤 映・阿部 和弘・伊東 麻美…………… 288	米田 哲・稲坂 淳・齋藤 滋……………56
amniotic fluid sludge と早産予知	不育症
米田 徳子・伊東 雅美・齋藤 滋…………… 296	高桑 好一・能仲 太郎……………64
〈早産の予防〉	卵巣腫瘍
塩酸リトドリンと硫酸マグネシウムの安全性	吉田 幸洋……………70
小谷 友美…………… 301	出血性びらん・子宮頸管ポリープ
子宮頸管縫縮術の臨床的意義	小島 崇史・山田 崇弘……………78
板倉 敦夫…………… 307	妊娠中の子宮頸部細胞診異常の取扱い
早産に対する黄体ホルモン療法の展望	田中 良道……………82
藤田 太輔・寺井 義人・大道 正英…………… 313	【妊娠 12 から 21 週まで】
早産予防とオメガ 3 (ω3) 脂肪酸療法の展望	《検査の実施法》
山下 亜紀…………… 320	妊娠 12 ～ 21 週に行う検査
子宮頸部円錐切除後の早産発症と予防	佐山 晴亮・永松 健・藤井 知行……………88
桑原 慶充・竹下 俊行…………… 327	胎盤の位置決定
広汎性子宮頸部摘出術後妊娠の周産期臨床像に関する後方視的検討	田中 宏和・秦 利之……………90
春日 義史・宮越 敬・田中 京子・青木 大輔・田中 守…………… 334	胎児の形態評価①
●妊婦健診のすべて一週数別・大事なことを見逃さないためのチェックポイント (4)	亀井 良政……………92
I. 妊娠週数ごとの健診の実際	遺伝カウンセリング
健診スケジュールの組み立て方	澤井 英明…………… 101
永松 健・藤井 知行…………… 6	《診断と外来対応》
【妊娠 11 週まで】	妊婦貧血
《検査の実施法》	藤田 太輔・寺井 義人・大道 正英…………… 108
初診時に行う検査	血液型不適合妊娠
佐山 晴亮・永松 健・藤井 知行……………12	大戸 齊・川畑 絹代・安田 広康…………… 113
妊娠反応	切迫後期流産・後期流産・子宮頸管無力症
南 佐和子……………14	内山 心美・大槻 克文…………… 117
妊娠初期の超音波検査と分娩予定日の推定	細菌性陰症
南 佐和子……………16	島岡 昌生・辻 勲・万代 昌紀…………… 126
感染症検査の評価	妊娠糖尿病の診断
森實真由美・山田 秀人……………20	船越 徹…………… 130
《診断と外来対応》	子宮筋腫
運動の指導	尾本 暁子・生水真紀夫…………… 134
喜多 伸幸・村上 節・高橋健太郎……………26	【妊娠 22 から 36 週まで】
薬についての指導	《検査の実施法》
西村 真唯・荻田 和秀……………30	妊娠 22 ～ 36 週に行う検査
妊娠悪阻	山下 亜紀・永松 健・藤井 知行…………… 140
高橋健太郎・熊谷 麻子……………36	胎児の発育評価
多胎妊娠の診断	田中 宏和・秦 利之…………… 143
寺田佳世子・中井 章人……………40	胎児の形態評価②
異所性妊娠	和田 誠司・杉林 里佳・小澤 克典・左合 治彦…………… 148
	《診断と外来対応》
	切迫早産・絨毛膜羊膜炎
	塩崎 有宏・齋藤 滋…………… 156

B 群レンサ球菌 (GBS)				設楽理恵子・永松 健・藤井 知行……………	278
印出 佑介……………	163			《診断と外来対応》	
前置胎盤				乳汁分泌不全	
村山 敬彦……………	168			秋山 瑞紀……………	282
多胎妊娠の管理				乳頭異常・乳腺炎	
石井 桂介……………	174			秋山 瑞紀……………	288
妊娠高血圧症候群				子宮復古不全	
大口 昭英……………	180			兵藤 博信……………	291
常位胎盤早期剥離				避妊指導	
工藤 美樹……………	187			兵藤 博信……………	295
羊水過多・過少				産後うつとその他の精神疾患	
村上 法子・佐藤奈菜香・亀谷 英輝……………	190			佐藤 昌司……………	299
胎児発育不全 (FGR)				II. ハイリスク妊婦の管理	
上塘 正人・松本 純……………	196			やせ・肥満	
胎児の位置異常				鈴木 一有・伊東 宏晃……………	306
橘 大介・北田 紘平・栗原 康……………	203			高血圧	
preterm PROM				大口 昭英・江口 和男……………	310
松田 義雄……………	206			糖尿病	
胎児死亡				平松 祐司……………	316
石本 人士……………	210			腎疾患	
母体の静脈瘤・下肢静脈血栓症				大野 泰正……………	321
金子 政時……………	216			心疾患	
妊娠糖尿病の管理				吉松 淳……………	325
平松 祐司……………	221			甲状腺機能亢進症・低下症	
既往子宮手術				大柴 葉子……………	330
清水 操・板倉 敦夫……………	228			SLE, Sjögren 症候群	
妊婦のマイナートラブル				金子佳代子……………	334
中島 義之・正岡 直樹……………	233			特発性血小板減少性紫斑病	
【妊娠 37 週以降】				佐山 晴亮・永松 健……………	339
《検査の実施法》				気管支喘息	
妊娠 37 週以降に行う検査				大場 隆……………	344
山下 亜紀・永松 健・藤井 知行……………	240			てんかん合併妊娠	
頸管の成熟度の評価				大浦 訓章・青木 宏明・岩崎 弘……………	348
小松 篤史……………	242			精神疾患 (妊娠中)	
胎盤機能の評価				佐藤 昌司……………	355
東島 愛・増崎 英明……………	246			●月経異常・不妊症の診断力を磨く (5)	
妊娠 37 週以降の胎児 well-being の評価				〈月経異常〉	
吉田 敦・増崎 英明……………	255			原発性および続発性無月経	
《診断と外来対応》				金崎 春彦・折出 亜希・京 哲……………	374
胎児機能不全・胎盤機能不全				希発月経, 過多月経	
村林 奈緒・池田 智明……………	261			恒松 良祐・加藤 聖子……………	381
児頭骨盤不均衡 (CPD)				多嚢胞性卵巣症候群	
菊池 友美・牧野 康男……………	266			佐藤 幸保……………	387
過期妊娠				体重減少性無月経および神経性食欲不振症	
馬場 洋介・松原 茂樹……………	271			岡垣 竜吾……………	394
【産褥期】				乳汁漏出性無月経	
《検査の実施法》				石橋ますみ・宇都宮裕貴・八重樫伸生……………	399
産後健診で行う検査				早発卵巣不全・早発閉経	

大森真紀子・平田 修司	405
〈不妊症〉	
排卵因子・卵巣因子	
木村 文則	412
卵管因子の検査・診断	
久野 芳佳・遠藤 俊明・斎藤 豪	419
子宮因子	
菊地 盤・齊藤寿一郎	426
子宮内膜症	
泉谷 知明・前田 長正	432
免疫性不妊	
柴原 浩章・児島 輝仁・鹿嶋 見奈・森本 篤・加藤 徹・長谷川昭子	438
男性不妊	
宮本 敏伸・水無瀬 学・千石 一雄	448
●産婦人科医必読 乳がん予防と検診Up to date (6)	
〈乳がんの疫学と予防〉	
日本人のリスク因子—欧米との違い	
岩崎 基	490
検診による死亡率低下の重要性	
斎藤 博・雑賀公美子・町井 涼子・高橋 則晃	498
〈女性のライフステージに沿った検診の重要性〉	
年代別の検診方法と検診間隔	
遠藤登喜子・森田 孝子・大岩 幹直	504
妊婦における乳がん検診	
土橋 一慶・赤川 元	512
ピルと乳がん	
佐々木 浩・大道 正英	520
ホルモン補充療法と乳がん	
高松 潔・小川真里子・高山 伸	524
〈超音波検査の意義〉	
超音波検査を用いた乳がんの診断	
岡村 隆徳・中島 康雄	538
エラストグラフィ	
梅本 剛	547
●専攻医必読 基礎から学ぶ周産期超音波診断のポイント (7)	
超音波断層法の原理と画像観察上の注意	
篠塚 憲男	604
〈妊娠初期〉	
正常妊娠診断のための超音波検査	
村越 毅	614
胎児異常の早期診断	
吉松 淳	625
〈妊娠中後期〉	
胎児形態異常スクリーニング	
山本 祐華・板倉 敦夫・竹田 省	632

胎児計測の基本	
谷垣 伸治・須山 文緒・芝田 恵・木野本智子・松島 幸生・鈴木 朋・菊地 範彦・左合 治彦	640
胎児・臍帯血流評価の基本	
宮越 敬・福武麻里絵・春日 義史・落合 大吾・松本 直・田中 守	648
胎盤異常診断の基本—前置胎盤、常位胎盤早期剥離など	
小松 篤史	658
3D/4D 超音波検査の活用	
高木紀美代・吉田 志朗	662
〈分娩時〉	
経陰超音波による分娩進行評価の実際	
小林 浩一・坂巻 健・後藤 美希	670
●体外受精治療の行方—問題点と将来展望 (8)	
〈体外受精治療の問題点〉	
治療成績の現状	
齊藤 和毅・齊藤 英和	720
新生児異常の実態	
平原 史樹	726
PGD, PGS の実態と問題点	
末岡 浩	732
未受精卵子凍結の課題	
竹内 一浩	738
配偶子提供の課題	
宇津宮隆史	747
代理懐胎	
久慈 直昭・嶋田 秀仁・井坂 恵一	758
体外受精妊娠の周産期母体管理	
濱田 裕貴・菅原 準一	764
〈体外受精治療の将来展望〉	
卵子老化への対応	
高井 泰	774
POI での卵子再生	
洞下 由記・河村 和弘	780
精子幹細胞研究の展望	
佐藤 卓也・小川 毅彦	786
体外受精治療への再生医療技術の応用	
野瀬 俊明	791
●がん妊孕性温存治療の適応と注意点—腫瘍学と生殖医学の接点 (9)	
〈婦人科腫瘍学：子宮頸癌〉	
微小浸潤癌への円錐切除術	
恒遠 啓示・寺井 義人・大道 正英	820
I B1 期への広汎性子宮頸部摘出術	
田中 京子・青木 大輔	826
妊娠中の広汎性子宮頸部摘出術	

榎本 隆之……………	832	〈腹腔鏡手術のピットフォール〉	
〈婦人科腫瘍学：子宮体癌〉		《良性疾患》	
子宮体癌に対する黄体ホルモン大量療法		異所性妊娠	
牛嶋 公生……………	842	塩田 充・佐野 力哉……………	1030
〈婦人科腫瘍学：子宮肉腫〉		卵巣腫瘍，子宮内膜症	
子宮肉腫に対する卵巣・子宮温存手術		工藤 正尊・櫻木 範明……………	1036
金村 昌徳・大道 正英……………	847	子宮筋腫，子宮腺筋症	
〈婦人科腫瘍学：卵巣腫瘍〉		西澤 春紀・廣田 穰・藤井多久磨……………	1046
上皮性境界悪性腫瘍に対する妊娠性温存手術		骨盤臓器脱	
梶山 広明・吉川 史隆……………	853	谷村 悟・飴谷 由佳・舟本 寛……………	1058
上皮性悪性腫瘍に対する妊娠性温存手術		《悪性腫瘍》	
佐藤 豊実……………	862	卵巣癌	
胚細胞腫瘍に対する妊娠性温存治療		寺井 義人・大道 正英……………	1066
青木 陽一……………	867	子宮体癌	
性索間質性腫瘍に対する妊娠性温存治療		太田 啓明・羽田 智則・安藤 正明……………	1073
坂本 尚徳・深澤 一雄……………	878	早期子宮頸癌における腹腔鏡下手術と注意	
〈婦人科腫瘍学：絨毛性疾患〉		山下 剛・宇津 裕章・金 美善……………	1087
絨毛性疾患に対する妊娠性温存治療		●婦人科がん診療を支えるトータルマネジメント—各	
井篁 一彦・馬淵 泰士・山本 英子……………	884	領域のエキスパートに聞く (12)	
胚凍結・卵子凍結・卵巣凍結の適応と注意点		〈副作用対策〉	
岩端 秀之・鈴木 直……………	890	悪心・嘔吐	
●婦人科疾患の妊娠産褥期マネジメント (10)		勝俣 範之……………	1118
妊婦の子宮筋腫		骨髄毒性	
平松 祐司・平野友美加・長谷川 徹……………	918	朴 将源・松本 光史……………	1124
子宮腺筋症合併妊娠について		脱毛	
平田 哲也・大須賀 穰・藤井 知行……………	925	飯野 京子……………	1131
妊婦の子宮内膜症		〈症状緩和への対策〉	
原田 崇・谷口 文紀・原田 省……………	930	がん性疼痛	
子宮奇形の妊婦—合併妊娠への対応方法と周産期管理		黒星 晴夫・細川 豊史……………	1136
片野 衣江・尾崎 康彦・杉浦 真弓……………	936	リンパ浮腫の評価	
妊娠中の卵巣腫瘍の画像診断		辻 哲也……………	1143
金内 優典・増崎 英明……………	940	胸・腹水の管理	
妊婦の良性卵巣腫瘍の取り扱い		寺本 瑞絵・斎藤 豪……………	1150
小谷 友美・岩瀬 明……………	950	精神症状	
妊婦の性器ウイルス感染症—性器ヘルペスと尖圭コン		内田 恵・明智 龍男……………	1159
ジローマ		〈他臓器転移への対策〉	
川名 尚……………	956	脳転移	
妊婦の骨盤内臓器脱		高橋 雅道・成田 善孝……………	1167
松永 竜也・野村 可之・平原 史樹……………	969	肺転移	
閉経後妊娠		的田 真紀・竹島 信宏……………	1174
笠井 靖代・杉本 充弘……………	976	肝臓・脾臓転移	
●婦人科腹腔鏡手術の進歩と“落とし穴” (11)		寺内 文敏……………	1178
腹腔鏡手術機器の進化—特に最近のシーリングデバイ		骨転移	
スについて		平安名常一・戸板 孝文・有賀 拓郎・橋本 成	
佛原 悠介・北 正人・岡田 英孝……………	1018	司・前本 均・村山 貞之……………	1185
腹腔鏡手術の教育・トレーニング法			
中林 稔……………	1023		

当院における特発性血小板減少性紫斑病合併妊娠の検討

穀内 香奈・大門 篤史・藤田 太輔・箕浦 彩・岡本 敦子・田吹 邦雄・田中健太郎・佐野 匠・渡辺 綾子・鈴木 裕介・神吉 一良・寺井 義人・大道 正英…………… 353 (3)

慢性骨盤痛を有する子宮内膜症症例に対する腹腔鏡下手術の効果とダグラス窩閉塞の存在による影響

廣田 泰・甲賀かをり・田島 敏樹・浦田 陽子・永井美和子・泉 玄太郎・山本 直子・高村 将司・齊藤 亜子・長谷川亜希子・原田美由紀・平田 哲也・平池 修・大須賀 稜・藤井 知行…………… 465 (5)

母子感染予防のための尖圭コンジローマ合併妊婦に対するレーザー蒸散術の有用性とウイルス学的検討

高橋 樹里・田口 歩・川名 敬・長阪 一憲・足立 克之・永松 健・大須賀 稜・藤井 知行…………… 697 (7)

当院における Atypical Glandular Cells (AGC) 手術症例の病理組織学的検討

池上 淳・坂本 育子・沼田 雅裕・大内 秀高・寺本 勝寛…………… 1003 (10)

症 例

大量出血をきたした巨大な子宮筋腫患者を緊急 micro-wave endometrial ablation にて止血, 治療した例

辻 芳之・伊藤 宏一・野坂 舞子・久保田陽子・加藤 浩志・伊田 昌功…………… 153 (1)

タモキシフェン服用後に発症した子宮体部漿液性腺癌 IVB 期の 1 例

林 嘉信・青柳いくみ・下釜 達朗・金城 満…………… 157 (1)

子宮粘膜下筋腫に対する子宮鏡下手術後の緊急止血にメトロイリントルによる子宮内バルーンタンポナーデ法が有効であった 1 例

伊藤 宏一・野坂 舞子・久保田陽子・加藤 浩志・伊田 昌功・辻 芳之…………… 255 (2)

卵巢原発悪性リンパ腫の 1 症例

八木 一暢・田村 一富・山本 啓司・山本 彰・山本久美夫・山片 重房…………… 259 (2)

胎児腸管穿孔部出血で胎児高度貧血をきたした胎便性腹膜炎の 1 症例

高畑 暁・笠松 敦・生駒 洋平・坪倉 弘晃・井上 京子・吉田 桃子・榎木 晋・神崎 秀陽…………… 359 (3)

卵巢癌術後 5 年目に孤立性脾転移をきたした 1 例

山田 新尚・桑山 太郎・尹 麗梅・大塚かおり・佐藤 香月・山本志緒理・田上 慶子・桑原和男・佐藤 泰昌・横山 康宏・岩田 仁・長尾 成敏…………… 471 (5)

塩酸リトドリン投与中に発作性上室頻拍を発症した 2 例

秦 利衣・木村 博昭・秋山 文秀・新井 未央・神下 優・羽生 裕二・平敷好一郎・神山 正明・山本 雅史…………… 579 (6)

非交通性副角子宮と同側卵巢内膜症性嚢胞および卵管留血腫に対する腹腔鏡下手術後に妊娠に至った 1 例

吉岡 信也・池田亜貴子・松尾 愛理・河原 俊介・安堂有希子・川島 直逸・三木 通保…………… 585 (6)

Ⅲ度子宮脱にて高度頸管炎を生じ, 人工早産に至った 1 例

南 李沙・峯川 亮子・白石真理子・細見 麻衣・土田 充・濱田 真一・山崎 正人・村田 雄二…………… 703 (7)

変性子宮筋腫が疑われた smooth muscle tumour of uncertain malignant potential (STUMP) の 1 例

白石真理子・峯川 亮子・吉村 道子・細見 麻衣・南 李沙・脇本 剛・土田 充・濱田 真一・村田 雄二…………… 803 (8)

FOCUS

腹腔鏡下仙骨陰固定術—骨盤臓器脱—戦国時代を生きる

市川 雅男・関根 仁樹・可世木華子・小野 修一・峯 克也・明楽 重夫…………… 137 (1)

羊水塞栓症

金山 尚裕…………… 236 (2)

悪性腫瘍における腹腔鏡下手術・ロボット手術の展望

井坂 恵一…………… 340 (3)

わが国におけるオープン・セミオープンシステムの展望

中山 摂子・安達 知子…………… 562 (6)

産婦人科における交代勤務制

木戸 道子…………… 676 (7)

どうなる, 子宮頸がん予防ワクチン

上田 豊・関根 正幸・榎本 隆之…………… 986 (10)

卵巢がん治療におけるベバシズマブのメリット・デメリット—現状・限界と, 将来の展望

竹内 聡・杉山 徹…………… 1098 (11)

女性産婦人科医のキャリアプラン

加藤 聖子…………… 1192 (12)

教訓的症例から学ぶ **産婦人科診療のピットフォール**

子宮筋腫として経過観察中に急激に悪化する子宮肉腫を発症した症例	
佐藤 孝……………	142 (1)
大量腹水をきたし、癌性腹膜炎と鑑別を要したクラミジア感染症の1例	
吉田 光紗・矢野 有貴・河井 通泰…	248 (2)
異所性妊娠に対する腹腔鏡手術後に臍創部から腹腔内出血をきたした症例	
松村 慶子・香川 秀之……………	345 (3)
初診時に確定診断に至らなかった異所性妊娠症例の検討	
武知 公博……………	454 (5)
子宮留膿腫と敗血症を契機に診断された大腸癌の1例	
秦 利衣・木村 博昭・平敷好一郎・井上 泰……………	568 (6)
5回の細胞診および組織診を行ったにもかかわらず診断しえなかった子宮頸がんの1例	
脇田 勝次……………	682 (7)
術前診断が困難であった後腹膜腔に発育した巨大変性筋腫の1例	
石山美由紀・渡邊 孝紀……………	895 (9)
初回診断で子宮平滑筋肉腫でないにもかかわらず3年後に肺転移をきたした1例	
涌井 之雄……………	991 (10)
円錐切除術後に子宮留血腫を発症した1例	
瀧川 恵子・塩津 英美……………	1094 (11)
「妊娠の可能性はありません」	
岡本 知光・堀川 麻衣・齊藤 調子……………	1197 (12)

Obstetric News (武久 徹)

Choosing Wisely®……………	147 (1)
妊娠中のアセトアミノフェン使用……………	252 (2)
分娩後避妊—USMEC for contraceptive use 2010……………	350 (3)
妊娠中と妊娠後のうつ病スクリーニング……………	462 (5)

糖尿病女性の避妊……………	576 (6)
子宮頸管長全例スクリーニングは有用か?—米国産婦人科学会年次総会 2015 年からの報告①……………	691 (7)
子宮頸管長全例スクリーニングは有用か?—米国産婦人科学会年次総会 2015 年からの報告②……………	796 (8)
子宮頸管長全例スクリーニングは有用か?—米国産婦人科学会年次総会 2015 年からの報告③……………	900 (9)
子宮頸管長全例スクリーニングは有用か?—米国産婦人科学会年次総会 2015 年からの報告④……………	998 (10)
早産の予知と予防 (1) —一切迫早産の診断 (早発陣痛)……………	1104 (11)
早産の予知と予防 (2) —偶然見つかった妊娠中期での子宮頸管長短縮にどのように対応するのか?……………	1202 (12)

Estrogen Series (矢沢珪二郎)

更年期以前の乳癌に対する卵巣機能抑制と exemestane の補助的使用について……………	150 (1)
静脈性血栓症、遺伝子型およびピル使用との関連、黄体ホルモン製剤の相違によるピル使用に伴う VTE 発生率の違い……………	246 (2)
更年期後のエストロゲン+プロゲステンの使用状況：米国の場合……………	352 (3)
更年期後のエストロゲン使用はどのように健康状態に影響するのか?……………	460 (5)
エストロゲン療法のタイミング説……………	578 (6)
卵巣予備機能検査①……………	695 (7)
卵巣予備機能検査②……………	800 (8)
卵巣予備機能検査③—要約と推奨……………	904 (9)
卵巣癌予防のための卵管切除術……………	1002 (10)
ピルの使用は脳内腫瘍を増加させる—デンマークからの調査結果……………	1106 (11)
更年期女性における大豆イソフラボンの役割 — NAMS 2011 Isoflavone Report……………	1206 (12)